

第 90 回神奈川県立座間谷戸山公園 現場研修会報告

—テーマ :市民参加プログラムの提案と水辺環境の順応的管理 —

10月の研修では、11月に開催される谷戸山まつりで行うプログラムの提案と、水辺環境の順応的管理を行いました。



今月の谷戸山公園も朝から晴天です。

さて、この2人が被っているドングリの帽子ですが、同じ樹種のもので

何の種類かお分かりになりますか。 答えは後ほど。



今回の研修は11月に開催される谷戸山まつりの市民参加プログラムの話し合いと、
湿生生態園での順応的管理を行います。

午前中は市民参加プログラムについて話し合いです。

今年はい伐更新地区でのプログラムを考えています。日頃の活動を多くの方に理解、関心を持ってもらうためにはどのような内容にしたらいいか、意見を交わしていきます。



プログラムの具体的な流れや実施場所を決めるため、皆伐更新地区へ移動します。
その途中、別の場所で樹の伐採を行っているボランティアの方たちに出会いました。
暗く樹齢の高い森が多い谷戸山公園では、森の若返りを図る為にも
樹を伐り森の更新を行う必要があります。



つつい作業に見入ってしまいお昼の時間になってしまったので、先にお昼休憩です。



冒頭のドングリクイズの答えは... コナラです。
同じ種でも樹によって実や帽子に個体差があります。
皆さんもドングリから樹の個性を見てみてはいかがでしょうか。



お昼休みは、講師に普段の活動の相談をしたり、天気が良いので昼寝をしたりと…。
参加者の皆さんに自由に過ごしてもらっています。



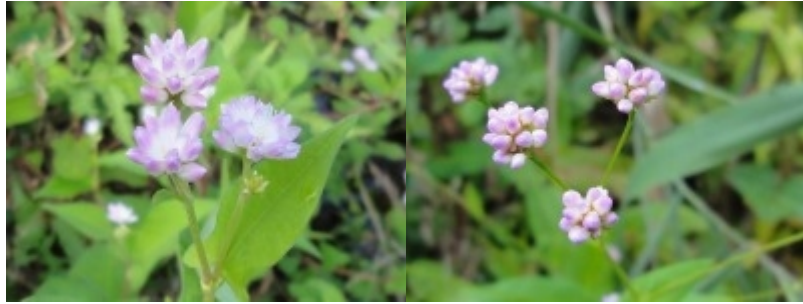
午後は、皆伐更新地区の下見から始まりました。
全体の流れや、プログラム参加者にどのような体験をってもらうのかなどを決めていきます。



写真の真ん中に、高い場所で伐られた樹があるのはお分かりになりますでしょうか。
これは、老齢の樹を高伐りしたら更新するのかという事を検証するために伐られたそうです。
結果は殆どの樹が更新しませんでした。やはり樹齡が高くなればなるほど、
森を更新する力は弱まってきてしまうのですね。



続いては湿生生態園でヨシ、セイタカアワダチソウの除去作業です。
数年間続けて作業を行っていることにより、ヨシの勢力も少しずつ弱くなっています。
洪水にかわる人為的攪乱を起こす事により、多様な水辺の植物が暮らしていける場を
つくっています。



活動の成果か、ヨシ以外の植物も多く見られるようになりました。
今回の湿生生態園は、ミゾソバ(写真左)やアキノウナギツカミ(写真右)が見ごろを
迎えていました。
この2種類、とてもよく似ていますが、葉の形を見れば違う種ということがすぐ分ります。



ミゾソバの葉(左)の形は「牛の額」に似ていることから、別名ウシノヒタイとも呼ばれています。
アキノウナギツカミ(右)の葉は長披針形で、基部は矢尻形です。
さらに茎にはトゲがあり、ウナギが掴めそうだからこの名前がついたそうです。



ミズジマイマイの交尾を発見！初めてカタツムリの交尾を見て、みんな盛り上がっていました。



これで本日の研修は終了です。

来月の25日には、谷戸山まつりも開催されます。

多くの方に楽しんでもらえ、かつ人に伝えるという勉強にもなる場になっておりますので、是非ご参加下さい！